第１回大分県新長期総合計画策定県民会議　安心部会

日時：令和5年9月6日(水) 11:00～12:15
場所：レンブラントホテル大分 2階 久住の間

№.	項目	発言要旨
1	変化１ 視点１ 論点① 共育て	・夫婦の「共育て」については、こどものうちから教育していかないと根付かないと思う。子育て中の家庭はほぼお母さんが頑張っているのが現状である。 ・加えて、休みを取りやすい労働環境が整わないと、子育てで生じるストレスは解消されないと思う。ストレスが向かう先は、結局家庭の中でこどもになるので、休みを取りやすい労働環境が一番の虐待防止にもなる。
2	変化１ 視点１ 論点② 人権	・パートナーシップ宣誓制度を進めていく上では、県民に数多くの事例を紹介する必要がある。制度を進めていくのか、それとも進めないのか、選択肢としてどういう事例があって、それがどういう背景のもとに行われたかというところを整理してはどうかと考える。 ・私見ではあるが、歴史を振り返ると、多様な人間関係が認められる寛容な社会の中では、芸術やスポーツの分野でたくさんの業績が生まれている。そういった観点からもパートナーシップ宣誓制度を進め、寛容な社会をつくるというのは重要である。
3	変化１ 視点１ 論点③ 障がい者	・障がい者雇用率日本一を目指すということもあるが、一人ひとりの希望や特性に応じて、本人たちの思いが叶うような新しい形をつくれないか。 ・今、どこも人手不足の中で、当事者一人ひとりの思いと県民の皆さんの需要を踏まえて、その中で活躍できる農福連携のようなところがあれば人の役に立つというところになるので、そのような仕組みができたら良いと考えている。
4	変化１ 視点２ 論点① 虐待	・県内のこども全員が安心して伸び伸びと暮らせているわけではない。 ・弁護士会では、未成年者を対象に月に２回ほどＬＩＮＥで自由に相談できるというシステムもつくっているが、やはり直接の相談と比較すると物足りなさもあるので、誰もが安心できる場所をつくっていくことは今後ますます重要になる。
5	変化１ 視点２ 論点② 生活困窮・DV	・弁護士は生活困窮者やＤＶ被害者の方からご相談を受けることも多い。そのような方々が抱えている困りごとを適切に把握して、どういうサービスがマッチングするのかというところを全般的に集約してうまく調整できるような仕組みがあるとよい。
6	変化１ 視点４ 論点① 地域共生社会	・コロナ禍前から孤立死・孤独死は年々右肩上がりで増加しており、地域コミュニティの希薄化を実感している。 ・今後の方向性に「ＳＮＳを活用した相談体制の強化」とあるが、地域のつながりを失って本当に孤立している人は、ＳＮＳなどの窓口を設けて「相談にしてください」という形では機能しない。 ・孤立してしまっているとメンタル面でも健康な状態ではない方もとても多いので、何か行政側からアプローチをする方法を検討したほうがよい。
7	変化１ 視点４ 論点① 防犯	・地域社会の再構築は地域社会が持つ犯罪抑止力を維持するという観点からも非常に重要である。 ・人手不足や地域のつながりの希薄化を前提にすると、ＳＮＳを活用した相談体制の強化のほかに、防犯カメラの設置促進、青パトの活動の強化、防犯ボランティアの組織化・活性化などがますます重要になってくる。
8	変化１ 視点４ 論点① 交通安全	・交通安全活動に携わる方々の高齢化が大きな課題となっており、学生などの若手、中年層の人材確保が必要である。 ・そのため、県から学校や企業に呼びかけていただき、社会貢献活動を授業や仕事の一環として捉えてもらうなど、交通安全活動に参加しやすい環境づくりを行っていく必要がある。
9	変化１ 視点４ 論点② ＮＰＯ	・ＮＰＯの運営は資金や人材の確保に難しさがある。 ・例えばフリースクールを運営しているＮＰＯは、利用者の月謝と寄付金で運営しており、非常に経営が不安定な状況にある。 ・また、人材もボランティアに頼っていたり高齢化しているという課題もある。 ・安心して働けるＮＰＯの環境整備は大変重要である。

第１回大分県新長期総合計画策定県民会議　安心部会

日時：令和5年9月6日(水) 11:00～12:15
場所：レンブラントホテル大分 2階 久住の間

№.	項目	発言要旨
10	変化２ 視点１ 論点① 子育て	・「奨学金を返しながら結婚してこどもを産み育てる自信がない」という声をよく聞く。また、幼児教育保育の無償化など大変助かってはいるが、それ以降にかかるお金がやはりネックになっている。 ・大学卒業までに子育てには大体2,900万から4,500万円の費用がかかると言われる。大きな希望を言えば、大学までの教育費無償化だが、難しければ県立学校に行くと学費が無料になるなどの対策もできるのではないかと思う。ちなみに宇佐市では宇佐市内の専門学校に行くと、市民は学費が半額になる。
11	変化２ 視点１ 論点① 子育て	・基本的に様々な施策は「大人が」という主語で検討されていると思う。例えば、大人の女性が働き続けるために、大人の男性が育休を取得など。これらはもちろん大事で、時代の要請や潮流の変化（人口減少など）に対応するという意味で必要なことだと思う。 ・一方で、こども園でこどもを受け入れている側としては、それでこどもが育つんでしょうかという気持ちも生まれる。 ・こどもの世界を見ると、７人に１人は貧困家庭、自殺件数は過去最多、不登校も過去最多、虐待の相談件数も過去最多。急いで社会を整えないといけない状況だと思う。これから計画を考える上では、ぜひ「こどもが」という視点を入れていただきたい。
12	変化２ 視点３ 論点① ＮＰＯ	・ＮＰＯの特長・強みは地域の近くに存在し地域課題に取り組んでいるというところ。そういった意味で人口減少に対応したまちづくりにおけるＮＰＯの存在は大切である。 ・他の委員からも話があったが、孤立している方々への行政からのアプローチ（発言要旨No.６）という点では、地域で活動しているＮＰＯなどが役に立てる。個人情報の取扱いなど難しい課題もあるが、ＮＰＯと行政が連携・協働することは重要である。
13	変化３ 視点１ 論点② 環境	・「プラごみゼロ宣言」をしっかり全面に出して、それをブレイクダウンし、県民にそれぞれ協力を仰ぐ形にしてはどうかと思う。 ・大分県は間違いなく環境先進県だと思う。しかし県民の感覚・意識はそうはなっていない。先進県だという具体的な根拠や考え方を示す必要がある。
14	変化３ 視点２ 論点② 防災	・発災時の危機管理体制の充実は間違いなく大事だが、事故や災害が起こる前の対応と起こった後の対応では、前者の方がコストパフォーマンスがよい。引き続き災害が起こる前の対策にしっかりと力を入れてもらいたい。
15	変化３ 視点２ 論点① 防災	・早期避難は非常に重要である。しかしこれまでの災害では自治体人口の１％を超える避難すらもほとんどなかったと思う。まずは人口の１％が早期避難することを目標にしてはどうかと考える。 ・その際、ずっと変わらない避難所の環境をどうしていくのかということも大きなポイントだと思う。全避難所を充実させていくと途方もないお金が必要になるので、各自治体に１つ、環境を整えた避難所準備をするという取組をしてはどうかと考えている。
16	変化３ 視点２ 論点① 防災	・世代ごとの取組というのも難しいところ。どうしても行政の考える防災は、地域を主体にした防災活動、自治会が中心の形になる。地域防災を主体にしつつも、若い人たちのコミュニティにどれぐらい防災意識を投げかけられるかということが非常に重要になる。 ・20代、30代で考えると、家庭の時間もあるし、土日に研修会といってもなかなか難しい状態だと思うので、逆に仕事の時間に学べたりとか、将来のある子どもたちにも防災を知ってもらうということをやっていく必要がある。 ・また、流行にうまく乗ることも大切。例えばＢＸ（防災トランスフォーメーション）と称して、何かワクワクするような、どんどんみんなで変えていこうみたいな看板を掲げて、県民の関心を惹くことも必要かもしれない。

第１回大分県新長期総合計画策定県民会議　安心部会

日時：令和5年9月6日(水) 11:00～12:15
場所：レンブラントホテル大分 2階 久住の間

No.	項目	発言要旨
17	変化４ 視点１ 論点① 医療	・コロナでの経験を経て、新たな新興感染症への備えは平時からの準備がいかに重要であるかを痛感した。圏域や地域によってはいろいろなやり方があり得るので、地域の医師会と行政が協力しながら準備を進めることが重要である。
18	変化４ 視点１ 論点① 医療	・平時の備えという点では、地域の医療資源がどのくらいあるのかということを事前に把握しておくことが重要である。そうすることで臨機な対応ができるようになる。 ・加えて、いろいろな地域にＩＣＴが広がって医療資源の情報が早く共有できるようになることが対策につながると思う。
19	変化４ 視点１ 論点② 医療	・医師の高齢化の進行、あるいは逆に働き方改革の推進によって救急や産科の医師の仕事がどうなるのか、診療科の偏在など課題は様々あるので、県医師会としてもしっかりと行政と一緒になって取り組んでいく。
20	変化６ 視点１ 論点① 食品 ＤＸ	・食の現場でも高齢化・人材不足の問題があって、ＤＸで職人技を誰でもできる状態に変えて生産性を向上させようという動きはあるものの、まだまだ遅れている。ＤＸをうまく活用したいという現場の声はあるので、行政からもサポートしてもらいたい。